

財務省が2025年度の国債発行計画を修正した。償還までの期間が10年を超える超長期債を減らし、短・中期債の比率を高める。買い手不足により金利が急上昇したことを受けての異例の対応となった。債券運用に長く携わる責任者に市場の見通しや運用方針を聞いた。（聞き手は生田弦己、河井優香）

「財務省の国債発行計画の見直しをどう評価しますか。」

「ポジティブに受け止め

## 国債発行計画、修正後の運用



PGM ジャパン  
投資運用本部長兼最高投資責任者

丸山 誠二氏

### 日本の超長期債に妙味

「米国防総省は日本を含むアジア同盟国の国防費を GDP 比5%まで増額すべきだと表明した。7月の参院選で消費税減税を掲げる野党が勢力を拡大すれば、短期的には市場の警戒感が高まり金利が大きく変動しやすくなる可能性がある」と

「超長期の日本国債に投資先として注目している分野を教えてください。」

「超長期以外の日本国債は。」「超中期は発行が増額され、日銀が買い入れを減額している。金利の上昇圧力がかかりやすい。日銀の利上げは半年に1度程度のペースを見込んでいます。しかし米関税政策や中東情勢などを理由に利上げ時期が後ろにずれると、政策金利の影響を受けやすい超中期は金利低下の圧力がかかりやすくなる」と

「超長期の日本国債に投資先として注目している分野を教えてください。」

「超長期以外の日本国債は。」「超中期は発行が増額され、日銀が買い入れを減額している。金利の上昇圧力がかかりやすい。日銀の利上げは半年に1度程度のペースを見込んでいます。しかし米関税政策や中東情勢などを理由に利上げ時期が後ろにずれると、政策金利の影響を受けやすい超中期は金利低下の圧力がかかりやすくなる」と